

奄美市の不登校対策 これまでとこれから

不登校対策の現状報告と今後の方向性

奄美市総合教育会議 令和8年8月24日
奄美市教育委員会 学校教育課



BACKGROUND

危機感：プロジェクト立ち上げの背景

全国平均を上回る増加率が、すべての出発点でした。

24.7%

全国 22.1%

令和4年度

不登校児童生徒数の増加率（全国平均を上回る）

27.7%

全国 15.9%

令和5年度

不登校児童生徒数の増加率（差はさらに拡大）

この危機感こそが、「あまみ型三層支援モデル」誕生の出発点です。

奄美市教育委員会 学校教育課



OUR JOURNEY

奄美市不登校対策のあゆみ

第Ⅰ期
令和6年度

あまみ不登校対策 プロジェクト始動

- ①教育委員会が主管課として主導
- ②魅力ある学校づくり
- ③早期発見・早期対応

第Ⅱ期
令和7年度

体制の強化

- ①支援シート活用研修
- ②SOSの受け方・出し方研修
- ③心の健康観察の実施
- ④SSWの追加配置
- ⑤多様な学びの場ガイドラインの作成

第Ⅲ期
令和8年度

SSRの新規設置

- ①校内教育支援センター（SSR）を設置
- ②あまみ型三層支援モデルの作成
- ③奄美市「いじめ問題・不登校」対策連絡協議会の発足

奄美市教育委員会 学校教育課



OUR APPROACH

あまみ型三層支援モデルとは

不登校対策は「学校に戻すこと」だけではありません。不登校をださない【予防】と、学びを止めない【保障】の両輪で、子供一人一人の社会的自立を支えます。



UNDERSTANDING THE CHILD

BPSモデルによる子供理解



B

Biological

生物的要因

- ・体調、疲労、睡眠の乱れ
- ・発達特性 (ADHD・ASD等)
- ・服薬、栄養状態



P

Psychological

心理的要因

- ・不安、自己肯定感の低下
- ・感情調整の困難さ
- ・過去のトラウマ、喪失体験



S

Social

社会的要因

- ・家庭環境、親子関係
- ・友人関係、いじめ被害
- ・貧困、地域とのつながり

先生方が日々感じている「なんとなくの違和感」を、B・P・Sの3つの引き出しに整理するのがBPSモデルです。医療・心理・福祉で50年以上使われてきた考え方で、令和4年の生徒指導提要改訂から教育分野にも取り入れられました。



PREVENTION

早期発見システムと家庭支援



早期発見システム (心の健康観察)

全学年・毎日実施。小さな変化に気付きやすい仕組みを構築しています。児童生徒自身のメンタルヘルストレーニングとしても活用しています。



家庭支援 (家庭を孤立させない)

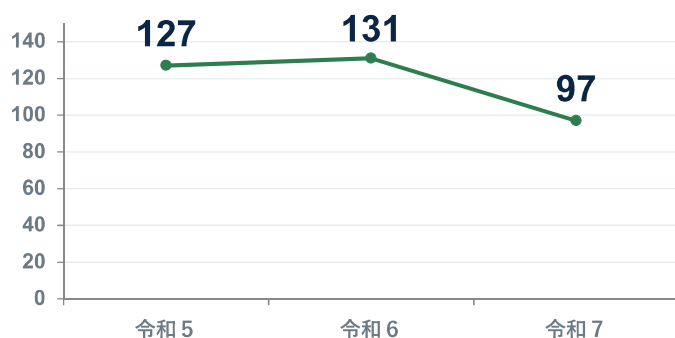
保護者相談、保護者交流会、関係機関連携、SSWによるアウトリーチを通じて、家庭が孤立しない支援体制を築いています。

『令和7年12月、自殺対策基本法改正に基づく会議：「全員に取り組む」「積極的に尋ねる」ことが大切。減多に起きなくても、一度たりとも起きないようにしていくことが大切』と伝えてます。



OUR RESULTS

成果①：不登校児童生徒数が大きく改善



令和 6 年度に対策を開始し
着実に改善

131名（令和 6 年度）

→ 97名（令和 7 年度）

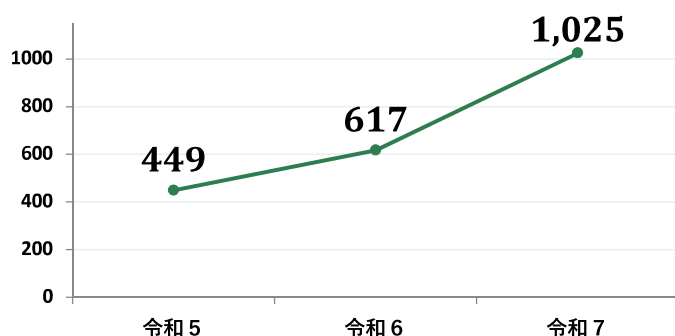
令和 6 年度の不登校増加率は+1.6%となり、全国平均（前年度比+2.2%）を初めて下回りました。
令和 7 年度は、不登校児童生徒数が97人（前年度比-26.0%）となり、初めて減少に転じました。

奄美市教育委員会 学校教育課



OUR RESULTS

成果②：いじめを「見逃さない」体制へ



2 年間で
約二倍に増加

449件（令和 5 年度）

→ 1,025件（令和 7 年度）

文部科学省は、認知件数が多い学校を「積極的に認知し、解消に向けた取組のスタートラインに立っている」と肯定的に評価しています。

奄美市教育委員会 学校教育課



NATIONAL CONTEXT

いじめ重大事態を、重く・早く・丁寧に捉える流れへ

全国では、いじめ認知件数・重大事態件数がともに過去最多を更新しており、国も「平時からの備え」と関係機関連携を強く求めています。

923件

令和 4 年度

1,306件

令和 5 年度

いじめ重大事態の発生件数（全国）

1,405件

令和 6 年度・過去最多

全国のいじめ認知件数も、令和 6 年度は約76.9万件で過去最多。国は令和 6 年 8 月に重大事態ガイドラインを改訂し、平時からの備えを求めています。

なぜ増えているのか



① 積極的認知の浸透

「小さな違和感」もいじめとして把握し、解消に向けた支援の入口に立つ考え方が広がっています。



② SOS把握の充実

アンケート、相談体制、1人1台端末等により、これまで表面化しにくかった悩みが見えやすくなっています。



③ 事案の複雑化

SNS上のトラブル、家庭・心理面の課題、不登校との重なりなど、学校だけでは見えにくい事案が増えています。

奄美市教育委員会 学校教育課



奄美市の考え：重大事態を見逃さず、繰り返さない

重大事態は、発生後の調査だけでなく、日頃の気付き・組織対応・再発防止までを一体として進める必要があります。

本市でも、いじめ積極的認知件数はこの3年間で倍増しており、「気付く」取組が着実に浸透しています。



① 気付く

心の健康観察、いじめアンケート、日常観察、保護者・地域からの相談を重ね、小さなSOSを見逃さない。



② 組織で判断

担任任せにせず、学校いじめ対策組織・管理職・教育委員会で早期に共有し、法に基づき丁寧に判断する。



③ 支える

被害児童生徒と保護者の不安を受け止め、安全確保・学びの保障・心理福祉支援を同時に進める。



④ 調べる

重大事態に該当する可能性がある場合は、ガイドラインを踏まえ、事実関係を丁寧に確認する。



⑤ 繰り返さない

結果を学校改善・研修・関係機関連携に反映し、同じ事案を生まない仕組みに変える。

「件数を少なく見せる」ことなく、「早く気付き、丁寧に対応し、次に生かす」ことを重視します。

奄美市教育委員会 学校教育課



R7 IN ACTION - 1/3

令和7年度（第Ⅱ期）に実施したこと①



「あまみっ子」すこやかプログラム研修会
継続

仲間づくり（構成的グループ・エンカウンター）の演習等を実施（講師：石塚勝郎氏／県教育カウンセラー協会）



支援シート活用研修
（年4回）
新規

不登校の傾向がある児童生徒の情報共有のための支援シートの活用方法や目標設定について、鹿児島大学 関山徹教授の指導のもと実施



あまみ不登校対策推進協議会の実施
新規

教育や福祉等の関係機関、地域住民や保護者等が参画。福祉部局と連携し、第1回を実施

奄美市教育委員会 学校教育課



R7 IN ACTION - 1/3

令和7年度（第Ⅱ期）に実施したこと①



「あまみっ子」すこやかプログラム研修会
継続



支援シート活用研修
（年4回）
新規



あまみ不登校対策推進協議会の実施
新規



奄美市教育委員会 学校教育課



R7 IN ACTION - 2/3

令和7年度（第Ⅱ期）に実施したこと②



「心の健康観察」を全小
中学校で実施
新規

誰一人取り残されない学び
の保障に向けた不登校対策
（COCOLOプラン）等を踏
まえ、1人1台端末を活用
してSOSを早期に把握



SSWを特認校へ配置
新規

SSWが配置されていなかった
小中併設の特認校（崎原小中
・芦花部小中）へ、週2回程
度ずつ配置しきめ細かな対応
を実現



SOSの出し方・受け止め
方研修を実施
継続 新規

奄美市自殺対策事業の研修

- ・教師対応：オンライン
- ・生徒対応：対面（2校）
- ・保護者対応：対面（2地区）
- ・教師対応：対面

奄美市教育委員会 学校教育課



R7 IN ACTION - 2/3

令和7年度（第Ⅱ期）に実施したこと②



「心の健康観察」を全小
中学校で実施
新規



SSWを特認校へ配置
新規



SOSの出し方・受け止め
方研修を実施
継続 新規



奄美市教育委員会 学校教育課



R7 IN ACTION - 3/3

出席・出席扱いガイドラインを策定 **新規**

1

ガイドラインの策定（令和7年12月）

学校外学習やICT活用学習など、多様な学びの形態を整理し、出席・出席扱いの考え方を明確化しました。

2

各学校への周知

市内すべての小・中学校に配付し、教職員・保護者・児童生徒への周知を行いました。

3

市ホームページへの掲載

保護者・児童生徒がいつでも確認できるよう、奄美市教育委員会のホームページにも掲載しました。

支援のゴールは、再登校だけではありません。

子供一人一人が、自分らしく学び続けられる環境を保障することが目的です。

奄美市教育委員会 学校教育課



新規

～あまみの子どもたちを光に～

令和7年12月
重慶市教育委員会

電氣設備製造商

- [illegible]

1

在北京市教育委员会

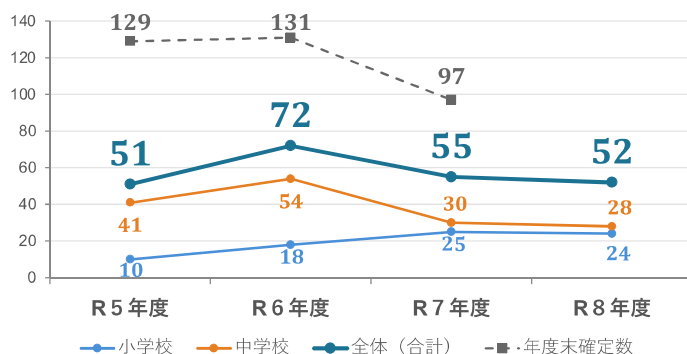
- [illegible]

24

番禺市教育委员会 学校教育課



油断はできません（不登校の推移：7月末）



例年同様のペース

→ 52名 (令和8年度7月末)

年間の不登校児童生徒数は改善していますが、7月末の不登校児童生徒の数は例年通りとなっています。つまり、2学期以降の取り組みが大切となってきます。

奄美市教育委員会 学校教育課



これは、見逃せない「サイン」です



年間の不登校児童生徒数は改善しましたが、一過性の可能性があります。



推測ですが、いじめの積極的認知が進む一方で、日々の校務の中で長期欠席の初期対応まで手が回りきっていない子供がいる可能性があります。



これまでの改善は、三層支援モデルという「対策の効果」によるものです。対策を緩めれば、数字は再び上向く可能性があります。

奄美市教育委員会 学校教育課

WHY NOW

減っているからこそ、
今、支援の手を緩めない。



これまでの成果を、「一過性」
で終わらせない

三層支援モデルの効果がでて
きています。支援を続けることが
大切です。



令和8年度、例年同様ペースの
不登校児童生徒に対応する

7月末時点のデータが、今まさ
にその兆候を示しています。



「学びの保障」を、すべての子
供に行き渡らせる

支援の受け皿を、通う学校を問
わず、すべての子供に届ける体
制へ。

奄美市教育委員会 学校教育課



R8 IN ACTION - 1/3

令和8年度（第Ⅲ期）で取り組むこと①



「あまみっ子」すこや
かプログラム研修会
継続

仲間づくり（構成的グループ
・エンカウンター）の演習等
を実施（講師：石塚勝郎氏／
県教育カウンセラー協会）



支援シート活用研修
（年2回）
継続

鹿児島大学 関山徹教授の指導
のもと、教頭・生徒指導主任
等を中心に実施



校内教育支援センター
（SSR）を新規設置
新規

朝日中学校に教育相談員を1
名配置。学校らしく見えない
教室を目指し、個別・協働の
両立が可能なレイアウトを工
夫

奄美市教育委員会 学校教育課



R8 IN ACTION - 1/3

令和8年度（第Ⅲ期）で取り組むこと①



「あまみっ子」すこや
かプログラム研修会
継続



支援シート活用研修
（年2回）
継続



校内教育支援センター
（SSR）を新規設置
新規



奄美市教育委員会 学校教育課



R8 IN ACTION - 2/3

令和8年度（第Ⅲ期）で取り組むこと②



SOSの出し方・受け止め方研修を実施
継続

奄美市自殺対策事業の研修

- ・教師対応：オンライン
- ・生徒対応：対面（2校）
- ・保護者対応：対面（2地区）
- ・教師対応：対面



道徳教育推進教諭等研修会の開催
新規

生徒指導と関連させた道徳教育をテーマに、子供の本音や葛藤を引き出す授業づくりや、SOSを出しやすい学級風土づくりについて協議を行った



奄美市「いじめ問題・不登校」対策連絡協議会の新設 **新規**

いじめ防止と不登校対策を一体的に議論する場として、教育・福祉・医療等の関係機関の代表者が一堂に会する連絡会議を発足させた

奄美市教育委員会 学校教育課



R8 IN ACTION - 2/3

令和8年度（第Ⅲ期）で取り組むこと②



SOSの出し方・受け止め方研修を実施
継続



道徳教育推進教諭等研修会の開催
新規



奄美市「いじめ問題・不登校」対策連絡協議会の新設 **新規**



奄美市教育委員会 学校教育課



R8 IN ACTION - 3/3

民生委員・児童委員との連携を強化 **新規**



民生委員・児童委員への講話を実施

今年度、市内の民生委員・児童委員を対象に、本市の不登校の現状やあまみ型三層支援モデルの考え方について講話を実施しました。学校や家庭だけでは気付きにくい変化を、地域で日頃から子供や家庭を見守る民生委員・児童委員の皆様にも捉えていただけるよう、アウトリーチ支援（家庭訪問等による見守り・つなぎ）への協力をお願いしました。

学校・家庭・地域が一体となって子供を見守る体制へ

家庭を孤立させない支援の輪を、学校の外側、地域社会にも広げる取り組みです。

奄美市教育委員会 学校教育課

民生委員・児童委員との連携を強化 **新規**

令和 8 年 6 月 10 日 奄美新聞

民生委員・児童委員の皆様の役割

「つなぎ役」としての誇り

民生委員・児童委員の皆様 → 学校・教育委員会 → 専門家 (SSW/SC) → 孤立した家族

皆さんが解決しなくていいです。「情報をつなぐ」ことが、孤立した家族を救う第一歩。支援者は「解決者」ではなく「つなぎ役」。その誇りを胸に。

奄美市教育委員会 学校教育課



CURRENT SUPPORT SYSTEM

現在の支援体制の全体像

- 市** **あまみスクールソーシャルワーカー（SSW）配置事業**
統括コーディネーター1人体制で、全小・中学校を統括
- 県** **県スクールカウンセラー（SC）配置事業**
小学校・中学校それぞれに派遣。学校と日程等を調整
- 市** **ふれあい教室（教育支援センター）事業**
教育相談員を2人配置。うち1人はコーディネーターとして各校との調整・連携・訪問等を担当
- 市** **ふれあいルーム（SSR）事業**
朝日中学校に教育相談員を1人配置
- 市** **住用・笠利地区 教育相談員配置事業**
住用地区：1名（毎週火曜日）／笠利地区：1名（毎週金曜日）

奄美市教育委員会 学校教育課



AMAMI CITY POLICY

奄美市の考え：SSRは「学びの保障」を担う本市の中核拠点

不登校対策は、学校に戻すことだけを目指すものではありません。学びを止めないことも、同じく大切な支援だと考えます。

SSR（校内教育支援センター）は、三層支援モデルで「学びの保障」を担う第3層の中核です。

- ① 安心できる居場所**
入室しやすい場所を選び、個別の学習と協働的な学習の両立ができるレイアウトを工夫します。
- ② 個別サポート計画**
アセスメントを行い、長期目標・短期目標を設定し、本人・保護者と共通理解を図ります。
- ③ 組織的な学校体制**
支援会議の開催や校内研修の実施を通じて、担当者だけでなく学校全体で子供を支える体制を築きます。

教室に戻ることを目標にせず、学びを止めない場を用意することが、本市の役割であると考えます。

奄美市教育委員会 学校教育課



奄美市の考え：センターの理念 — 子供ファースト

適応するのは子供ではなく学校である、という考え方を、センター運営の基本理念としています。

SSR（校内教育支援センター）は、次の5つの理念を軸に、一人一人の子供に向き合います。



① 「安心」を最優先に

「ここにいていい」と思える居場所を大切にします。安心が学びと関わりの出発点です。



② 「ちがいを尊重

みんな違って、みんないい。自分らしく過ごせる学校づくりを進めます。



③ 「声」を聴く

先生や支援員が一方向的に決めるのではなく、子供と話し合いながら支援の方向を共に考えます。



④ 「成長」を見取る

小さな努力や前進を認め、自信につなげます。教室復帰ではなく社会的自立を目指します。



⑤ 「未来」を育む

家庭・地域・関係機関と連携し、子供が将来に希望を持てるよう共に育みます。

適応するのは子供ではなく学校です。これが、あまみ校内教育支援センターの一貫した姿勢です。



HOW SSR WORKS

SSRの運営方針

1

環境整備

「学校らしく見えない教室」を目指します。入室しやすい場所を選定し、個別の学習と協働での学習の両立が可能なレイアウトを工夫します。

2

個別のサポート計画の作成

適切なアセスメントを実施し、長期目標・短期目標を設定。児童生徒・保護者との面談等によって共通理解を図ります。

3

組織的な学校体制の構築

不登校等児童生徒支援会議の開催、校内研修の実施、他の教職員・児童生徒・保護者への周知を進めます。



NEXT STEPS

今後の方向性：SSRを1校から3校へ

現状

1校・相談員1名

設置校数

1校

教育相談員

1名



拡充案

3校・相談員3名

（名瀬地区計2校・笠利地区1校）

設置校数

3校

教育相談員

3名（+新規1名）

増員する1名は、既存の教育支援センターからの配置転換で対応し、体制強化と財政負担への配慮を両立します。



ROADMAP

実施スケジュール（案）

1

令和8年度2学期

対象校の選定、人員配置の調整、教育相談員の募集・配置転換の準備

2

令和8年度3学期

新規2校でのSSR設置準備、教職員・保護者への周知

3

令和9年度～

名瀬地区に1校、笠利地区に1校を加えた3校体制でのSSR本格運用を開始し、成果を検証

奄美市教育委員会 学校教育課



EXPECTED IMPACT

期待される効果



学びの保障がすべての子供に

通う学校にSSRがなく支援を受けられなかった子供にも、学びの機会が届きます。



支援の目が行き届く体制

相談員1名あたりが担う範囲が絞られ、一人ひとりに丁寧に向き合えます。



子供・保護者の安心

校内に相談できる大人がいることが、子供にも保護者にも安心につながります。

奄美市教育委員会 学校教育課



OUTLOOK: R8

展望① 令和8年度（今年度）



保護者交流会（仮称）の開設

名瀬地区、笠利地区小・中学校の保護者を対象に、実施を予定。必要に応じてSC・SSW等の専門職も参加します。保護者同士の交流促進、安心して相談できる場の提供、孤立感の軽減、学校・家庭・関係機関の連携強化、保護者の声を支援施策へ反映することを目指します。



学校給食費の負担軽減の検討

文部科学省「給食費負担軽減交付金交付要綱」では、非喫食者（不登校等のやむを得ない事情で給食を受けられない児童）への給付事業も交付対象です。岡山市では、給食を停止している児童の保護者へ、給食費相当額を学期ごとに給付する制度を導入しています。本市でも、こうした制度を参考に検討を進めたいと考えています。

奄美市教育委員会 学校教育課



OUTLOOK: R9

展望② 令和9年度



SSRの拡充

名瀬地区に1校（計2校）、笠利地区に1校を新たに設置。教育相談員を1名から3名へ増員します（増員分の1名は、既存の教育支援センターからの配置転換で対応）。



教育メタバースの活用検討

オンライン相談・学習の場として、教育メタバースの活用を検討します。文部科学省の令和7年度補正予算・令和8年度当初予算案でも、不登校児童生徒支援に関連するICT環境整備が言及されており、鹿児島市や京都府城陽市など、他自治体でも導入が進んでいます。

奄美市教育委員会 学校教育課



OUTLOOK: R10

展望③ 令和10年度



学びの多様化学校（不登校特例校）の開校

不登校児童生徒の実情に配慮した特別の教育課程を編成する学校の開校を目指します。SSRでの実践の蓄積を土台に、開校準備を推進。多様な学びの選択肢の充実、SSRとの連携、ICTを活用した学習支援を通じて、「誰一人取り残さない学び」の実現を目指します。

さつま町への視察を行い、場所の確保・教育課程の整備・予算の確保・地域への説明会など、準備を計画的に進めていく方針です。

奄美市教育委員会 学校教育課



RECOGNIZED NATIONWIDE

文部科学省「教育委員会月報」に掲載されました

「教育委員会月報」2026年6月号（第78巻3号）

特集「不登校児童生徒への支援・生徒指導に関する取組」

地方発！我が教育委員会の取組 — 鹿児島県奄美市教育委員会

「BPSモデルを基盤とした子供理解の深化とSOS教育の推進」

～チーム学校による不登校支援体制の構築～

奄美市の取り組みが、全国教育委員会に向けて発信される事例として取り上げられました。



奄美市教育委員会 学校教育課



RECOGNIZED NATIONWIDE

文部科学省「教育委員会月報」に掲載されました

「教育委員会月報」2026年6月号（第78巻3号）

特集「不登校児童生徒への支援・生徒指導に関する取組」



奄美市教育委員会 学校教育課



本日のまとめ

三層支援モデルの取り組みにより、不登校児童生徒数は3年間で大きく改善しました。しかし、令和8年度の不登校児童生徒数（7月末段階）は、例年通りで推移しており、気を緩めることはできない状況です。

今後の方向性として、

- 保護者交流会（仮称）の開設
- 学校給食費の負担軽減の検討
- 校内教育支援センター（SSR）を1校から3校へ
- 教育メタバースの活用検討
- 学びの多様化学校（不登校特例校）の開校

保護者支援や学びの多様化学校など、多角的な取り組みを見据えながら、子供たちが早い段階で「気付いてもらえる」体制を、これからも維持してまいります。

奄美市教育委員会 学校教育課

